

衆議院農林水産委員会ニュース

平成 30.5.9 第 196 回国会第 12 号

5 月 9 日（水）、第 12 回の委員会が開かれました。

1 理事の補欠選任

- ・理事の補欠選任を行いました。
理事 緑川貴士君（国民）（理事大串博志君去る 7 日委員辞任につきその補欠）

2 厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律の一部を改正する法律案（内閣提出第 37 号）

- ・齋藤農林水産大臣、磯崎農林水産副大臣、野中農林水産大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成－自民、立憲、国民、公明、共産、無会、維新）
- ・鈴木憲和君外 6 名（自民、立憲、国民、公明、共産、無会、維新）から提出された附帯決議案について、石川香織君（立憲）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを付することに決しました。
（賛成－自民、立憲、国民、公明、共産、無会、維新）

（質疑者及び主な質疑内容）

福山守君（自民）

- ・本法律案の趣旨を確認したい。
- ・農林年金制度が完了することによって、関係者にどのようなメリットがあるのか。
- ・農協改革集中推進期間の開始から 4 年が経過しようとしているが、農協の自己改革に何を期待するか、農林水産大臣の見解を伺いたい。

緑川貴士君（国民）

- ・各農林漁業団体による特例業務負担金の支払いにより、特例年金を受給しない職員にとって給付と負担の不均衡が生じているのではないか。
- ・存続組合の事務負担の増加が見込まれることから体制整備が必要ではないか。
- ・米の農産物検査の見直しの検討状況を伺いたい。

江田康幸君（公明）

- ・平成 22 年度から導入された一時金を選択できる仕組みの狙いと効果を確認したい。
- ・一時金の支給対象者に対して、制度の内容や請求の手続についてどのように周知するのか。
- ・存続組合の解散はいつ頃になると見込まれるのか。

田村貴昭君（共産）

- ・森林経営管理法案の背景資料を修正した経緯を伺いたい。
- ・各農林漁業団体において、特例業務負担金はどの程度負担となっているのか。
- ・一時金の支給の義務化について、支給対象者全員の理解を得ていると考えているのか。

神谷裕君（立憲）

- ・受給権者の財産権の保護について、どのように整理されているのか確認したい。
- ・本法律案の成立後、できる限り早期に施行すべきではないか。
- ・一時金の支給に係る税制上の措置について確認したい。

森夏枝君（維新）

- ・本法律案の提出の意義を伺いたい。
- ・農林年金が厚生年金に統合された際、いわゆる 3 階部分を特例年金として継続して給付することとした理由は何か。
- ・本法律案の成立後から農林年金制度の完了、存続組合の解散に至るまでのスケジュールを伺いたい。

金子恵美君（無会）

- ・一時金の支給の義務化の意義、必要性について伺いたい。
- ・一時金の支給に要する財源確保について農林水産大臣の見解を伺いたい。

- ・存続組合の事務負担の増加への対応を検討すべきではないか。